

令和3年度第2回乙訓地区小中学校使用教科用図書採択協議会 概要

日時：令和3年7月28日（水）
午後2時から2時30分まで
場所：長岡京市立図書館 大会議室

1 開会・挨拶

西村会長（長岡京市教育委員会教育長）

2 出席者

(1) 協議会委員

○ 西村文則	会長	○ 永野憲男	副会長	○ 馬場信行	副会長
○ 白幡節子	委員	○ 松本克彦	委員	○ 中野緑	委員
○ 福澤秀夫	委員	○ 京樂真帆子	委員	○ 盛永俊弘	委員
○ 吉川栄一	委員	○ 南顕融	委員	○ 榎本和彦	委員
○ 宮本佳子	委員	○ 藤川敬之	委員	○ 大木義文	委員

以上、15名

欠席者 流石智子 委員、大下和徹 委員

(2) 研究員

代表研究員及び市町指導主事 2名

(3) 各市町教育委員会等事務局

長岡京市 4名 碓次長兼学校教育課長、渡辺主幹兼学校教育係長、塩貝主事、
嶋崎主事

向日市 2名 松石主席課長兼学校教育課長、藤田学校教育係長

大山崎町 2名 上田学校教育課長、上村学校教育係 係長

オブザーバー 京都府乙訓教育局 松岡企画教育課長

3 議題 調査研究に係る報告について

代表研究員から、調査研究報告を行った。

（以下、質疑応答及び意見。質疑を「○」、応答を「→」で表す。）

社会【歴史】

- 昨年度採択し現在使用中の帝国書院について、学校現場からの意見はどうか。
→ 使い勝手が良いという意見が多く、おおむね高い評価である。

- 昨年度の社会の教科書は地理・地図ともに出版社（帝国書院）を選定したが、仮に歴史だけ他の出版社の教科書を選定した場合、学習面で何か支障はあるか。
 - どの教科書も検定を合格して発行されるため、学習面への支障はないと考えられる。ただし、自由社はやや特徴的な歴史観での記述が見られることから、教える側が主流の考え方をしっかり認識した上で子どもたちの学習につなげる必要がある。

- 近現代の琉球に関する記載はどうであったか。
 - 琉球処分についての記載があるが、一種の奴隷解放だったとの表現を用いて肯定的なトーンで書かれているのが特徴的であった。

- アイヌの人々に関する記載はどうであったか。
 - 旧土人保護法の制定については、旧土人という呼称がしだいに差別的な意味合いを持つようになったとの記述もあるが、明治政府によるアイヌの保護だというトーンが強い書きぶりになっている。

- アジアと日本の交流について古代から近現代に至るまでの特徴的な記述はあるか。
 - 大東亜会議とアジア諸国に関する記述では、日本の植民地支配はヨーロッパ諸国からの解放だというトーンが強く書かれていたのが特徴的であった。

- 自由社はコラムが多い印象であったが、子どもたちの学力面を考えると、基礎的な知識理解が積み上げられるか懸念が残る。
 - 歴史理解が十分にある生徒にとってはコラムを通して興味関心をより伸ばすことになるかもしれないが、不得手な生徒もいるなか、教科書としての扱いにやや難しさがあると感じる。

- やや特徴的な歴史観のある自由社の教科書を使った場合に、高校入試のための学習に影響はないか。
 - 教員は教科書を教えるわけではなく、教科書で教えるため、検定を通った教科書であることから影響はないと考えられる。